椎谷めぐりモデルコース

《Aコース》

★椎谷ふれあいセンター⇒●陣屋跡入口（東屋）⇒①陣屋跡⇒③御膳水⇒④不動堂（身隠しの滝）⇒⑤仁王門と芭蕉の句碑⇒⑭夕日が丘公園（栗原医師殉職之碑）⇒●明治天皇御小休所跡⇒②馬市の史跡・馬市宿元「梅屋」⇒★椎谷ふれあいセンター

《Bコース》

★椎谷ふれあいセンター⇒●陣屋跡入口（東屋）⇒①陣屋跡⇒②馬市の史跡・馬市宿元「梅屋」⇒⑤仁王門と芭蕉の句碑⇒⑥頓入坊入定窟と300段の石段⇒⑦香取神社栄寿丸石鳥居⇒⑧椎谷観音堂⇒⑨大欅⇒⑩観音堂宝物殿⇒⑪香取神社⇒⑫椎谷鼻灯台⇒⑭夕日が丘公園（栗原医師殉職之碑）⇒●明治天皇御小休所跡⇒★椎谷ふれあいセンター

《Cコース》

★椎谷ふれあいセンター⇒⑯椎谷海浜公園⇒⑬椎谷層露頭⇒★椎谷ふれあいセンター

お問い合わせ

事務局／柏崎市椎谷町内会

連絡先

椎谷町内会（会長）
TEL･FAX：0257-35-7772
メール：nori.umibe@kvj.biglobe.ne.jp

椎谷観音堂・華蔵院
TEL･FAX：0257-35-2756
メール：kezou772@gmeil.com

2019年3月発行

①陣屋跡【県指定・史跡】

椎谷藩は、堀氏1万石で元和2年（1616）の立藩より明治4年（1871）の廃藩にいたる約250年間、15代にわたり椎谷陣屋を治所として領内を統治しました。

初代藩主・直之（なおゆき）公は、元和2年（1616）に妙法寺村（現西山町妙法寺）超願寺に仮陣屋を設けましたが、元和5年（1619）に椎谷に移り陣屋を構えました。その後、4代藩主・直宥（なおさだ）公は元禄年間（1688～1764）に、同じ椎谷の唐箕前（とうみのさき）に陣屋を移し、正徳5年（1715）の5代藩主・直央（なおなか）公の時に現在の地（打越）に移りました。

陣屋は、標高20メートルほどの高台におかれ、総面積約3,000坪の広さを有しましたが、慶応4年（1868）5月の戊辰の役により藩主邸をはじめ、馬場、籾蔵、武具蔵、砲術稽古場、勤番所は焼失しました。今でも井戸、土塁などの遺構が残っており、当時の陣屋の姿をしのぶことができます。

②馬市の史跡・馬市宿元「梅屋」

椎谷の馬市は、椎谷藩初代藩主・堀直之公が馬の改良を奨励したことから始まったようです。毎年6月24日から7月2日までの間に行われ、東北地方からも人馬が集まり、最盛期には8千頭もの馬と1万人を超える仲買人が馬市に参加しました。椎谷の馬市は安芸の広島、奥州の白河と並び日本三大馬市と言われました。そのため椎谷観音堂には馬の絵馬が数多く奉納されており、当時の名残がしのばれます。

平成25年5月、馬市宿元があった所に椎谷堀家22代当主・堀光宗様により建立された「史跡日本三大馬市蹟」の記念碑が建っています。

今でもまち並みの中には、商談の場を持ち、人馬の宿を営んだ馬宿の建築物が残っています（建物内部は見学できません）。

【平成28年度歴史的建造物調査実施】

③御膳水

明治11年（1878）、明治天皇北陸御巡幸の際、椎谷の羽田本屋（本陣）でお休みになられました。その時、陛下に不動様の境内にこんこんと湧き出る清水を汲み、お茶を差し上げたところ、とてもおいしい水で、陛下も大変満足されたということです。

この湧き水の前に「明治天皇御膳水」の碑が建っています。

明治天皇椎谷御小休所跡

④不動堂

200年ほど前に堂宇（どうう）が建てられたと伝えられています。

昔、弘法大師が諸国を行脚され、この地方を通られた時、椎谷の地に不動明王様を安置し、しばらくこの地に滞在されました。

その後、不動明王様は夜明けの霧が立ち込める朝に、突然、不動堂裏にある滝の中に身を隠してしまったことから、この滝を「身隠しの滝」と言うようになりました。

戦後、荒れるにまかされていた堂宇は、昭和60年に取り壊され、平成3年に再建されました。

⑤仁王門と芭蕉の句碑

観音堂の参道入口には朱塗りの仁王門があります。明治期の建築と推定され、通路の両側に仁王像が安置されています。

【平成28年度歴史的建造物調査実施】

その傍らに松尾芭蕉が元禄元年（1688）に大和行脚で詠んだ俳句『草臥（くたびれ）て 宿かるころや 藤の花』の句碑があります。

この句碑は、江戸の俳人巣也（そうや）が文政4年（1821）俳諧行脚でこの地に来て滞在中、椎谷観音堂で咲く藤の花を見て、土地の俳人武田岡右エ門とこの句を選んで建立したものです。

⑥頓入坊入定窟（とんにゅうぼうにゅうじょうくつ）と300段の石段【市指定・史跡】

仁王門から観音堂に続く300段の石段を18年の歳月をかけて築き、その後、寛政6年（1794）6月に自らお経を唱えながら入定したという頓入坊の入定窟です。

頓入坊は、刈羽村正明寺に住む暴れん坊でしたが、多くの人たちに迷惑をかけたことを反省し、観音堂で髪を剃り出家しました。そこで、今までの罪滅ぼしに一生かけても、みんなが観音堂まで楽に上れる石段をつくろうと決心し、完成させたものです。

⑦香取神社栄寿丸石鳥居【市指定・史跡】

300段の石段の中ほどに明神（みょうじん）石鳥居が建っています。この鳥居は、享和2年（1802）椎谷栄寿丸の船主小三郎と水夫（かこ）5名が奉納したものです。

石工は、「長州赤間関松屋伊兵衛清道」との銘が刻まれ、北前船の船主が航海中の安全を祈願して、船絵馬と同じように奉納したものです。

船の安定をはかるため、長州からの帰り荷として重い石の鳥居を積んできたものと思われます。

正面右の柱の黒いしみは、慶応4年（1868）5月の戊辰の役で官軍の砲弾が命中した跡だと言われています。

⑧椎谷観音堂【市指定・史跡】

弘仁2年（811）に海中から現れた観音さまが本尊です。子授け祈願により佐渡の宿根木に子どもとして生まれ変わり、7年後に再び椎谷に戻ったと伝えられており、子授け観音として知られ、「しいやの観音さま」と広く親しまれています。

現在の観音堂は明和7年（1770）の建築で木造平屋建て、茅葺（かやぶき）の大きな入母屋（いりもや）屋根の建築物です。正面の向拝（ごはい）周りには質の高い彫刻が多く使われています。

参道には300段の石段が配置され、麓に仁王門、中腹に香取神社の石鳥居が設けられています。

椎谷藩の厚い庇護を受けたこともあり、椎谷藩堀家から寄進された宝物が同境内の「宝物殿」に奉納されています。また、馬市でも賑わったことから、それらに関する絵馬なども多く奉納されています。

当時、椎谷は経済・文化の中心地として栄えていたことが、観音堂に奉納されている北前船の船絵馬などからしのぶことができます。

【平成28年度歴史的建造物調査実施】

⑨大欅（おおけやき）

観音堂の右手に見える巨木で柏崎市の天然記念物に指定されています。冬の厳しい北風を受けながらも堂々と立ち、夏は涼しい日陰をつくってくれます。樹齢は、1,000年と言われています。

●目通り6.6メートル、根回り9.7メートル、樹高30メートル

⑩観音堂宝物殿

観音堂境内東側に白亜の楼閣風の宝物殿があります。三重の金属板葺の屋根を持つ、木造二階建ての建築物で、大正13年（1924）に建築されました。椎谷藩主堀出雲守、6代藩主直恒（なおつね）公ゆかりの品や仏額絵馬など、文化財の指定を受けた数多くの宝物が所蔵されています。ご本尊（秘仏・聖観音像）も安置されており、住職一代一度の御開帳が昭和59年6月1日から5日間行われました。【平成28年度歴史的建造物調査実施】

二舎人黒駒

陰陽の弓

⑪香取神社

椎谷藩4代藩主・堀式部少輔直宥（なおさだ）公が領内の鎮護、武運長久の神として、旧領内下総の本宮より勧請して建立したものです。拝殿は天保11年（1840）建築の木造平屋建て、屋根は桟瓦葺の入母屋造りで正面に一間の向拝がつきます。歴代藩主の崇敬が極めて厚く、今日まで椎谷の鎮守様として親しまれています。

香取神社は、新潟県内に唯一椎谷にしかありません。平成19年7月の中越沖地震で大きな被害を受けましたが、町内外の皆さんのご協力・ご支援をいただき、平成22年に旧材を活かして修復しました。【平成28年度歴史的建造物調査実施】

出兵人員武運長久の奉納額

⑫椎谷鼻灯台

椎谷というと、観音さんと灯台と言われます。昭和30年、第9管区海上保安本部によって設置された無人式灯台です。平成19年7月の中越沖地震により基礎部分に亀裂が入り危険なことから、平成22年3月に円筒形6階構造の灯台に建替えられました。

この灯台は、日本海を新潟港方面に向かう船にとって、椎谷鼻灯台と佐渡島南方の沢崎灯台とを結ぶ線が、自船が佐渡海峡に入ったことを確認するための重要な役目を持つ灯台です。

⑬椎谷層露頭

日本海が生まれた際の、火山噴出物【グリーンタフ（大谷石）】の上に七谷層、寺泊層が堆積し、その上に椎谷層、西山層、灰爪層が堆積しました。

これらの地層は西山油田関係の調査で確認されたもので主要な産油・ガス層です。いずれも西山油田地帯近くの地域名から地層名が命名されています。なお、この椎谷層の命名は椎谷岬の露頭でなされました。

特徴は砂岩、泥岩の互層からなり、生成年代は540～400万年と言われています。

⑭夕日が丘公園・栗原医師殉職之碑

椎谷町内の北側、高浜漁港のすぐ上に夕日が丘公園があります。新潟県の日本海夕日ラインキャンペーンが展開された平成4年に完成し、ここから望む日本海に沈む夕日は感動を与えてくれます。

公園からは、霊峰米山が望め、遠くは妙高山や日本海に浮かぶ佐渡島を一望することができる柏崎市内でもベストビューポイントのひとつです。

また、この公園内には、昭和19年の大雨で犠牲となられた栗原医師の殉難碑ならびに慰霊碑が建てられています。

⑮椎谷海浜公園

椎谷海浜公園は、高浜漁港に併設された公園として、平成14年につくられました。

三方を防波堤で囲まれているため、波の影響を受けることなく安全に海水浴を楽しめると、家族連れの皆さんには大好評です。7月中旬から8月中旬までの海水浴シーズンは、多くの人たちで賑わいます。

⑯応仁（おうじん）神社

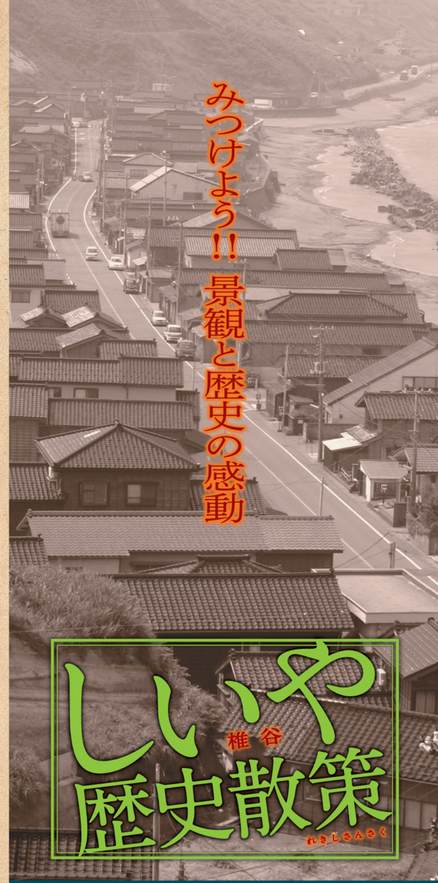
椎谷町内の南側のはずれ（柏崎市街地方面から来ると椎谷の入口）に国道352号まで突き出ている山があります。

昔、この山の頂に王神様のお社がありました。この神様は何でも自分の力で思いのままになることから、いたずらをしてはしばしば沖を通る船を止めていました。町内の人たちが相談して、社が海に向いているので海の見えない奥の沢へ移しました。

しかし、この沢には池があり度々風水害を受けたので、現在の場所（海の見えない所）に再度移されました。

⑰机立観音堂跡

国道 352 号を新潟方面に向かい、椎谷岬トンネルを出た所に数軒の民家があります。

そこに机立観音の小さなお堂がありました。今からおおよそ1300 年前、第 46 代孝謙天皇の御代の泰澄大師の建立とされています。海から漂着した十一面観音像を土地の人が机上に立ってお参りしたことから、この名がついたと言われています。

観音堂は中越沖地震で被災し取り壊され、ご本尊と木喰仏は大崎の真蔵院に安置されています。現在は石碑のみが残っています。